

佐原の町並み

かわら版

第14号

平成10年6月

・小野川と佐原の町並みを考える会
・佐原町並み保存会

改めて忠敬先生の偉業が光る

伊能忠敬記念館オープン

五月二十二日、伊能忠敬旧宅前に待望の記念館がオープンし、市民も含め大勢の観光客で連日賑わっています。



新記念館の外観は、重要な伝統建造物群保存地区の町並みにふさわしい土蔵風。内部へ入ると江戸時代へタイムスリップしたような雰囲気、佐原時代から伊能図を完成させるまで業績を成し遂げた忠敬の人物像がわかるよう展示が工夫されています。

五十才を過ぎてからの忠敬の情熱は、高齢化社会を迎えた今、とても参考になるということ。来館者も増えていきます。そういうお客様を温かく迎えることにより町が活性化することを願っています。

江戸東京博物館で『伊能忠敬展』開催

江戸東京博物館での忠敬展を、町並みを考える会と観光ボランティアの両メンバーで、五月十六日に見学しました。

とても広い会場にドーンと展示された伊能図や資料等、合計百九十五点には圧倒されました。特に初めて見た八枚組の中図、そしてイギリスから里帰りした三枚組の小図には、その精密さ、正確さ、美しさに感動。

午後は一階ホールでの、小島一

仁先生の講演と、忠敬研究者によるパネルディスカッション。

会場が満席なのにもびっくりしたが、それ以上に、日本中に熱心な忠敬研究者が大勢いることや、年四回も研究会報誌が発行されていること等を知り、本当に驚きました。

六月十六日、二十三日、NHKの『堂々日本史』で伊能忠敬が放送される等、生涯現役を貫いた忠敬先生に乾杯！

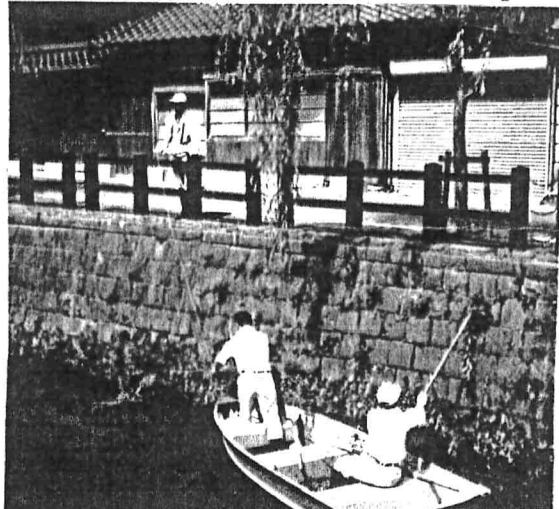
あやめ祭と記念館オープンで

にぎわう町並み・三菱館案内処

忠敬記念館への来館者やあやめ祭りの水生植物園から、町並み散策へと、観光客が昨年よりずっと多く見られるようになりました。

観光客の方々からの「家々の前に、あやめが咲き揃い、私達を迎えてくれているようで。」
「柳と川、瓦の家並み、しっとりした風情が、このように残っていて素晴らしい。」

小野川すっきりと衣がえ



からりと晴れ上がった作業日。五月二十日、東電佐原営業所、市役所、香取土木事務所職員の皆さんによる小野川護岸清掃が行われました。

護岸の雑草や川岸のごみ等がとりのぞかれ、小野川はさっぱりときれいになりました。

考える会でも、正上さんから市川米屋さんまでの柳の根元に、中寅さんより大量に寄贈された「竜のひげ」を植えました。皆さん、足もとの小さな緑に気が付きましたか？しっかり根がついてほしいものです。

お休み処での温かい接待に、佐原の人情のよさを実感しました。

「お休み処での温かい接待に、佐原の人情のよさを実感しました。」
等、生の声を聞かれるのも、ボランティアならではのものでしよう。
三菱館、中央観光案内処ともに一日、百数十名を越える（記帳者）来館者でにぎわっています。

三菱館は「考える会」の会員で、一日を午前、午後に振り分け、当番を実施していますが、今のところ、当番に出られる会員が少なく、開館に苦慮しています。

観光客に、良い印象のまま帰って頂けるように、是非当番を！
また、会員が増えるよう努力したいものです。

忠敬茶屋オープン



観光客の「ひと休みしながら、軽食や飲み物があつたら」という要望に応える『忠敬茶屋』が誕生。飲み物、食べ物各種、土産物も置いてあり、忠敬焼きや抹茶もたててくれる粋な所もあります。

観光客だけでなく、地元の人達も気軽に入って、大いに利用していきたいものです。

町並み話

柳越しに伊太郎現る

「ごめんヨー」と、三度笠とふり分け荷物を持ち、チョンマゲ、手甲脚半、旅姿の粋な男衆が、川岸を歩いてきました。周囲にいた観光客はビックリ！。尋ねると、このシーズン水生植物園にも出没し、サーブスしているとか。

名刺を見ると写真入りの潮来の伊太郎、数年前カラオケで優勝と記されている。柳をバックに一曲歌ってもらったり、「一緒に写真を撮って」との要望に応えたり大サーブス。この後、かつばからげて川岸を去って行きました。

こんな名物人の往来があると、佐原の町並みにも似合い、趣きもあるものだと感じました。

